

あけまして
おめでとう
ございます



社会福祉法人尚徳福祉会 末長こぐま保育園 2021年1月4日



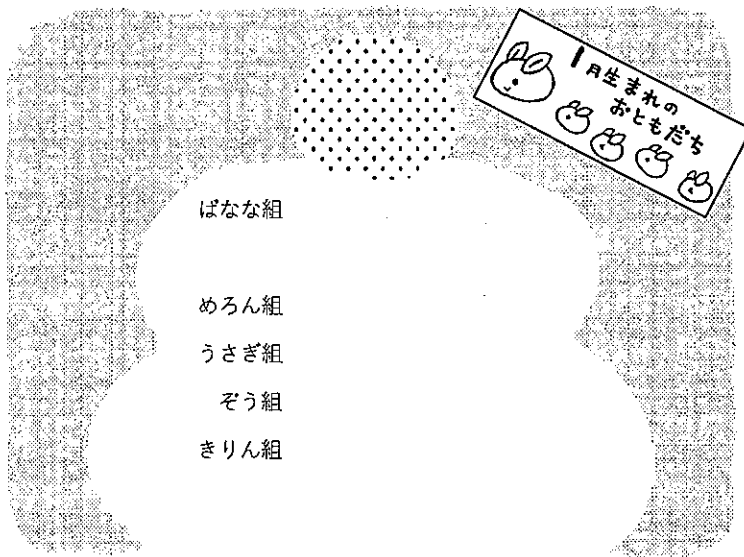
2021年の幕開けです。そしてコロナも2年目を迎えます。

まさか自分が、こういう時代を経験するとは思いませんでした。こんなにたくさんの国を巻き込んで世界規模で生活や経済が変化し、私たちもその影響を少なからず受けました。でも、保育園にはどんな日でも子どもの笑う声や喧嘩する声、ひらめきの笑顔やしよんぼりの顔があり日常がありました。今はこの日常のありがたみを感じています。

2021年もこの毎日を大切に守り、職員みんなで力を合わせて保育をしていきます。

少し余談になりますが、実は今年で末長こぐま保育園は10周年になります。歴史でいうならまだまだ浅いですが、それでも10年の節目は胸にくるものがあります。特にイベントは……ありません。

園長



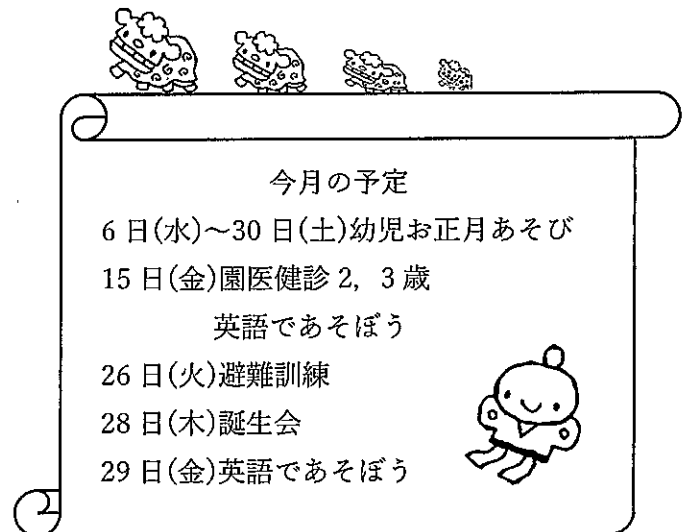
ばなな組

めろん組

うさぎ組

ぞう組

きりん組



今月の予定

6日(水)~30日(土)幼児お正月あそび

15日(金)園医健診 2, 3歳

英語であそぼう

26日(火)避難訓練

28日(木)誕生会

29日(金)英語であそぼう



今回は信濃毎日新聞(長野)の2020年11月30日のコラムを紹介します。

【のび太のような人こそ】

勉強も苦手で、運動もできない。容姿もいまひとつ。そんなのび太は「自分そのものだった」。原作者の藤子・F・不二雄さんはそう語っていたという。原作漫画の連載開始から今年で50年となった国民的アニメ「ドラえもん」である。劇場公開中の映画「STAND BY ME ドラえもん2」は大人になった主人公のび太と幼なじみのしずかの結婚がテーマだ。美人で優しく芯の強さもあるみんなの憧れが、なぜのび太と。ドラえもんの秘密道具のおかげと思われても無理はない。2人を近付けたのは秘密道具ではなかった。原作漫画のエピソードの数々を読み込むと分かる。むしろ道具に頼ったときはろくなことになっていない。今回の映画には出ないが、ファンがよく知る場面がある。結婚前夜になって不安にかられたしずかに、しずかの父がこう諭す。「のび太くんを選んだ君の判断は正しかったと思うよ。あの青年は人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことのできる人だ」。誰かの痛みを自らのことのように感じる。他者の喜びを自分の喜びに変えていける。のび太の魅力はそんな共感力だろうか。コロナ禍の苦境にある映画館でこの映画は大ヒット中の「鬼滅の刃」に次ぐ存在感を放っている。鬼滅を見て才能に満ちた満ちた剣士の自己犠牲に涙する人は多い。でもこの先、本当に必要な力は何だろう。のび太のような人こそ力を発揮する。そんな社会を思い描いてみるのも悪くない。